

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500155		
法人名	NPO法人 ともにあゆむ会		
事業所名	グループホーム こぶなと		
所在地	花巻市下小舟渡262-1		
自己評価作成日	平成26年8月23日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念「幸せの追及」「笑う・ほめるで元気になる」を基に、ユニット目標(笑顔で元気に毎日歩こう)(今年1年このメンバーで過ごしましょう。)を掲げ利用する方の生き甲斐を、今以上に強化し生きる喜びや楽しみを感じてもらえるよう追及しております。職員には介護技術の向上のため資格取得を推奨し、勉強会の実施、研修会への参加等技術向上に力を入れています。日頃から防災意識を高め、火災や地震等を想定し、避難誘導訓練を定期的の実施しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390500155-00&Pr_ofCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年10月16日

○「グループホームこぶなと」は、開所間もないこともあり、明るく清潔な感じであり、リビングの窓も大きく、開放的である。利用者は、昼間は居室で寝ているという方は殆どおらず、一日の大半をリビング兼ダイニングで職員と会話したり、習字を書いたり、散歩に出かけたりと、それぞれの過ごし方で生活している。利用者同士の会話もみられる。○事業所の今年の目標は、「笑顔で元気に毎日歩こう」である。この目標が意識的に実践され、イギリス海岸など近隣の観光地への散歩や雨の日の屋内での体操など、日常的な外出や運動が毎日の生活に取り入れられている。○職員の資質の向上を図るために、介護技術などの勉強会を行ったり、講習、研修への参加を促し、資格取得を奨励している。これまで普通の主婦だった方(職員)で、介護福祉士やケアマネの資格取得へ挑戦している職員も少なくない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に年度目標を定めホールの見やすい所に掲示し毎朝唱和している。	理念は、「幸せの追及：笑うほめるde元気になる」である。これは、「笑うことで元気になる、職員が明るくなければ、利用者も明るくならない」という理事長の考えから作られた。毎朝の唱和で職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の園児との交流や地域ボランティアによる慰問の受け入れ、地域行事や公民館の文化祭等積極的な交流を図っている。	隣接して地域の公民館があり、11月の文化祭には作品展や写真展示を行い、事業所を紹介している。また、近所の幼稚園や保育園とも親しい関係が作られ、芋掘り、スイカ割などの行事を一緒に行っている。地域のボランティアによる踊りや三味線演奏などの機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やグループホームを理解して頂くために地区の公民館主催のイベントに参加したり、神社の祭りに出向いたりして交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、施設の活動状況を報告している。市の職員、包括支援センターの職員、民生委員等をメンバーとして実施している。会議では利用状況等を報告し、運営の適切さを計ってもらう場となっている。	委員の構成は、市役所、地域包括の職員、利用者家族、民生児童委員に事業所職員である。議題としては、利用者の状況、ヒヤリハット事例の報告、行事の報告などで、幼稚園との交流事業と合わせて開催することもある。	グループホームは地域密着型のサービスとして、地域の理解と支援を得ることが求められている。今後は、地域の自治会関係の役員等(会長、区長等)の参加についても検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の担当者に出席していただき、具体的なアドバイスをしてもらっている。	市の担当者には、運営上疑問な点や不明な点があれば相談し、時には来所してもらうこともある。最近では、生活保護の担当者の説明を受けている。広報誌も届けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠しておらず、夜間のみ鍵を掛けている。身体拘束の内容を確認し合い職員全員が理解している。	身体拘束に関し、グループホーム協会のブロック会議での研修、交換研修も行っている。法人全体では外部研修に参加した職員からの伝達研修も行われている。言葉による拘束にも注意している。車いすの転倒防止のため、家族の申し入れにより、同意書を得て肩を固定している利用者がある。県にも報告済みである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束や虐待の勉強により、施設内での介助にそのような対応がないか常に確認し、発生防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを通じ制度を学び、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に料金やサービス内容を十分に説明し、理解を求め納得した上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や、電話対応時に意見や要望を聞き、対応している。	家族の来訪時に居室担当から生活の様子などを説明し、それに対して家族からの要望や意見がある。家族との話し合いの内容は、毎日の介護記録に記入されるとともにスタッフ会議に報告され、必要な対応がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議では、職員の自由な発言ができる雰囲気づくりをしている。	職員には日頃から、意見、提言を奨励している。スタッフ会議に参加できない時には意見をメモで提出してもらい、誕生会の希望メニューのタイミングに夜勤者の意見を反映させたこともある。自己評価は、職員が分担して記入し、施設長が総括的に取りまとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1人1人役割分担をもち、意見や提案を自由に出せる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に参加する機会を設け参加後は、会議などで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、花北ブロック会議に参加しており、他施設等と情報交換を行いサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の際は、本人からも困っていること、不安なことや要望などに耳を傾け、気持ちを確かめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には、サービス内容について家族と相談し、開始後も家族と連絡を取り合い情報を伝えている。又、要望をききそれに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前のアセスメントに重点を置き、他のサービスを視野に入れながら本人、家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の簡単な下ごしらえや食後の後片付け、又洗濯物たたみを職員と共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には、本人と家族との時間をつくるよう努めている。又、近況を報告するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活してきた地名や関わりのあった人の名前などを会話のなかにとり入れるようにしている。又、電話や便りがあった際には、なるべく本人が対応できるよう支援している。	兄弟姉妹などを含めると来訪者は多い。利用者の家族が、踊りのボランティアで訪問することもある。また、友人知人との手紙のやり取りなどについても、交流が継続できるよう、職員も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が一緒に活動する場を設けている。利用者同士の関係を把握し、必要に応じてホールの席替えを行ったり、職員が間に入り声掛けをし、利用者が孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の様子を尋ねたり、家族からの相談をきいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、好きな事、嫌いな事の把握に努め、本人より聞けないときは生活の様子よりうかがい知るように心掛けている。	普段の会話の時はもとよりであるが、特に文化祭に向けた作品の準備などで、ともに作業をするなどの機会が増えたり、関わりが深まる時に思いや願いを汲み取ることが多い。利用者からは実家を気にかけての話がよく出るが、それらの思いを家族に話したことを伝えると、安心した表情が返ってくる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基礎となる事前調査の読み返しや、家族から今までの生活の様子を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や排泄の様子の記録をとったり、レク活動や歩行の様子で心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月スタッフ会議を行い利用者の様子に合った介護計画の見直し、家族との連絡強化で要望を聞いている。	毎月一度の職員によるスタッフ会議で利用者の状況を把握するほか、法人各事業所を巡回している看護師の意見なども踏まえて、利用者の状況を確認し、計画の見直しなどに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者一人一人の介護記録をとっている。又、申し送りや気づきノート、スタッフノートを利用し情報の共有をはかっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の願いも把握し、利用者一人一人に合わせたサービスを提供できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歩道が整備され、近所にある公民館や神社、堤防までの散歩を日課にしている。行事の中に外食ツアーを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、情報提供書を作成し、施設での日頃の様子を伝えるようにしている。	利用者は全員従来のかかりつけ医を継続している。受診の対応は原則として家族が行うこととしているが、このことが利用者との面会の機会に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の気付きは、看護師に報告し、指示を受けるようにしている。ノートの活用、共有を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師や看護師との情報交換のため、病院へ足を運んでいる。利用者にとって最善の状態を維持できるよう家族、病院関係者と何度も話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、今後、事業所で取り組んでいくという方向性を家族に伝えている。	看取りの指針は作られている。家族から希望があれば看取りに対応することとし、その旨入居者にも説明している。対応については、法人全体で勉強会も行っている。同一法人の他事業所では、看取りを行った経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の対応を知り、身につけるためAEDの使い方や、誤嚥の対応など勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加しての避難訓練を実施している。地域の方にも見守りなどの協力をお願いしている。	春と秋の二回、避難訓練と消火訓練を消防署立会の下に実施している。夜間想定訓練も実施している。地域の協力として隣家の住人には、車椅子での避難者の支援もお願いしている。そのほか、地形的に低地にあるので、水害対策に関する市の説明会に参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導などはそれぞれの利用者に合わせて声掛けを行い、パットの確認などは人目につかないよう気を付けている。	身体拘束に関する研修の中で、プライバシーの確保に関する研修も行っている。職員配置に余裕を持たせており、また、理念も浸透していることから、ゆとりを持った対応ができています。職員が、きつい言葉や人格を傷つけるような言葉を言うことはない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	習字の大好きな方には食事のメニューを書いてもらっている。とてもいねいに清書されている。それを毎日貼りだしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての活動において、利用者の体調を把握し参加してもらっている。体調が良い時は利用者はとて積極的に活動している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、化粧品などは本人の希望どうり家族や職員が支援している。衣類は家族や職員と好みのものを買に行ったり、その日着る服を職員と相談しながら選ぶなどおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れ季節感や彩りにも配慮した、メニューを提供している。ほとんどの利用者が普通食を楽しんでいる。野菜の皮むきや食後の後片付けも利用者と職員と一緒にしている。	厨房の担当者として2名を配置している。うち、1名は、調理師である。メニューは各事業所の担当者4名で相談しながら作成している。食事の時は、テレビを消して、皆で会話を楽しむようにしている。誕生会は希望メニューで食事をしたり、外食や敬老会、忘年会などの行事等でも変化をつけた食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は体調や体重の変動に合わせて調整している。定時の水分補給のほかにも散歩後、入浴後など必要に応じ摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを行っている。自力でケアできない利用者には介助している。夕食後は、各自ポリドント洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ声掛けをしている。いつもと違う変化がみられた時は、職員間での情報を把握し見守り支援を行う。	排泄パターンを把握して声掛けなどで対応する。羞恥心に配慮し、ドアを閉めての介助、さりげない話し方などに留意している。完全に自立している方は、2名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供したり、レクの際に便秘体操を取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入浴前にはバイタルチェックをし、体調や希望時間に合わせ調整を行っている。会話をしながら楽しく気持ちの良い支援を心掛けている。	週3回、一日おきに午後の入浴で、日曜日は休みとしている。入浴は1人ずつの話をゆっくりと聞ける貴重な時間という位置づけである。入浴を嫌がる人は殆どいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール内のイスやソファでウトウトしている利用者には、居室誘導したりソファで横になってもらったりしている。夜間時は、室温、照明、物音に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者の薬について理解を深めうまく服用できない方には粉薬に変更してもらったり、トロミ剤を使うなど工夫をしている。服用後の症状の変化にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下膳、食器拭きや片付け、洗濯物たたみ、裁縫などできることをやっていたきながら、生活意欲を高める支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、花見やお祭り、施設外の交流会への参加などを計画実施している。個別対応で、職員との買い物やドライブで気分転換をはかっている。	雨の日以外は、イギリス海岸までの往復など、毎日およそ30分程度の散歩をしている。休憩用の軽量の折りたたみ椅子を持参して行っている。ひな祭り、花見、バラ園など遠出の機会も大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により買い物できることを伝え、必要なものがある場合は施設の一時立て替えで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や状況に応じて、手紙や年賀状などを書いたり、不安なく電話などができるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けを行ったり、廊下などの掲示スペースに行事のスナップ写真などを貼りだしている。	リビング兼ダイニングとなっているホールは、南側に面して広い窓が作られ、ここから道路を通り過ぎる子供たちや通行人の姿が見える。適度の広さで、居心地がよく、利用者は夜眠るとき以外の殆どの時間をここで過ごしている。利用者同士で会話をされる姿も見られる。壁には行事の写真のほか、利用者が半紙に習字で書いた毎日のメニューなども貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置替えを考慮したり、ソファ、座布団、毛布の利用などにより快適な空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や日頃使い慣れた日用品など入居の際に持ち込んでいただいている。利用者の作品や、行事写真なども飾っている。	部屋には、ベッド、収納棚、エアコン、物干しスペースなどが用意されており、利用者はそれぞれの生活スタイルの必要に応じて、整理ダンス、テレビなどの家具類を持参し、写真や絵画などで部屋を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の手すりは利用者の自立と動きのサポートとなっている。又、居室入口に名前と顔写真や目印を付けている。		